

第11回グローバル・コミュニケーション・プログラムチームリーダー募集要項

1 目的

国際的に活躍できる人材の輩出を目指し、2大学1高専（東京都立大学（以下、「都立大」という。）、東京都立産業技術大学院大学（以下、「産技大」という。）及び東京都立産業技術高等専門学校（以下、「高専」という。））の学生が、所属や年齢が異なるメンバーでチームを編成し、共通の課題に取り組むことで課題解決力（人間力）や英語を含むコミュニケーション能力を身に付けながら、国際的な感覚を養うことを目的とする。

2 プログラム概要

グローバルビジネスに関連したテーマを題材とし、リーダーの明確なリーダーシップのもと調査研究、仮説設定・検証を行い、課題に対する提言を行う。

参加学生は、本プログラムを通じてグループワーク、英語研修、国内及び海外でのフィールドワーク、海外学生との協働による調査や交流等を行い、国際感覚溢れる実践的な課題解決力（人間力）を身に付けるとともに、英語を含むコミュニケーション能力の向上を図る。

3 求める人材

- (1) チームリーダーとしてチーム活動を先導し、チームで協調しながら課題に取り組むとともに、リーダーシップの習得に意欲的な学生
- (2) 海外での多様な体験を通して国際的な感覚を養うことに意欲的な学生

4 対象者（募集時点）

- (1) 都立大 学部生
3年生以下を対象とする。但し、都立大大学院及び産技大への進学が決定している4年生も対象とする。
 - (2) 都立大 大学院生
 - ア 博士前期
1年生を対象とする。但し、都立大大学院及び産技大への進学が決定している2年生も対象とする。
 - イ 博士後期
2年生以下を対象とする。
 - (3) 産技大
1年生を対象とする。但し、都立大大学院への進学が決定している2年生及び長期履修制度による2年生も対象とする。
 - (4) 高専生
 - ア 高専専攻科に進学が決定している、もしくは都立大3年次に編入が決定している本科第5学年の在校生
 - イ 高専専攻科第1学年の在校生
 - ウ 都立大大学院又は産技大への進学が決定している高専専攻科第2学年の在校生
- ※上記（1）から（4）までの対象者のうち、過去にリーダーとして本プログラム（中止となった第8回GCPは除く）を受講したことがある者は除く。

5 募集人員

6名程度

<チームの構成等>

- ・チームリーダー（1名）と高専本科生（5名程度）から成るチームに、高専教員をアドバイザーとして配置し、チームを編成する。

<構成員の役割>

- ・チームリーダーは、プロジェクトが円滑に進むよう、チーム活動を先導し、チーム及びプロジェクトのマネジメントを行う。
- ・メンバーは、他のメンバーと協力し、チームリーダーを支え、プロジェクトを遂行する原動力となる役割を担う。
- ・高専教員は、プロジェクトの円滑な進行のために、リーダー及びメンバーの相談に乗るアドバイザーとしての役割を担う。

6 プログラム実施における感染症対応

本プログラムは、原則として感染症対策を講じた上での参集実施を想定しているが、新型コロナウイルス感染症等の状況により適宜オンラインに切り替える等の対策を行う。

また、特に渡航やフィールドワークを含めた国内外の現地における活動等については、国内海外それぞれの社会的状況及び外務省が発出する海外安全情報における感染症レベルの変更等により実施が困難と判断した場合、これを行わず、オンラインによる代替プログラムを実施する。

なお、渡航に関する項目15 特記事項を参照すること。

7 実施時期及び期間

- (1) 国内におけるプログラム：2023年4月～2023年11月
(※リーダーは2023年2月、3月にリーダーオリエンテーションを2日間程度、先行実施予定)
- (2) 海外におけるプログラム：2023年9月上旬中の9日間程度

8 海外における現地活動プログラム実施場所

シンガポール共和国

9 プログラム実施内容（予定）

- (1) 国内におけるプログラム【事前学習】
 - ア 課題学習
 - ・下記を参照の上、チーム毎にテーマを設定、調査・研究の実施、仮説の立案
 - ・国内フィールドワーク（テーマに関連する企業などへのインタビュー等）
 - ・各チーム合同による課題学習の中間発表、有識者による講義受講、国内合宿 等
 - ・各チームの進捗確認等を全体で実施

国際的人財育成のためのグローバルビジネス研究プロジェクト
ー世界に羽ばたく国際人へのジャイアントステップー

高専生メンバー数名と都立大生・産技大生・高専専攻科生のいずれかのリーダーとでグループを作り、アジアの同年代の学生や国内外の企業等の協力を得て、世界共通の課題について調査研究し、世の中のニーズに応えられる製品やサービスなどの新しいアイディアによる解決策の提案を行う。

- ・詳細に関しては、別紙1を参照すること。
- ・チーム毎の調査テーマは、プログラム開始時に、リーダーが中心となって設定する。

【参考】 過去のグローバル・コミュニケーション・プログラム調査テーマ

「未来の心をデザインする-からっぽSNSの是正-」、「国際交流への第一歩」、

「学生の通学時間を快適に!」、「日本版ホーカーセンターの提案」、

「人生100年時代×モビリティー」、「秋田愛向上プロジェクト-Make Akita a Shining Star-」

「親子の運動を促進する新たなアプリ「WaPla」の提案」、「料理のレパートリーを増やす為に」

「関係人口を増やそう」「子育てにおける男女平等～AIで父親と母親のコミュニケーションギャップを解消する～」

イ 英語学習（コミュニケーション能力向上研修、プレゼンテーション研修）

- ・コミュニケーション能力向上研修

研修支援会社の設置する各教室での対面受講、自宅等からのオンライン受講のいずれかの方法で実施する

- ・プレゼンテーション研修（1日間程度、8月実施予定）

チーム毎の受講とする予定

ウ リーダー研修（3月に2日間程度。4月以降随時。）

エ TOEIC、RIASEC コンピテンシー測定テスト受験（4月～6月に受験予定）

(2) 海外におけるプログラム

ア 課題学習

- ・海外フィールドワーク（テーマに関連するインタビュー等）

イ 英語による現地学生との協働調査・交流・合同プレゼンテーション

ウ 日系海外企業の事業調査

(3) 国内におけるプログラム【事後学習】

ア 報告書の作成、最終報告会の実施

イ プレゼンテーション研修（3日間程度、9～10月実施予定）

ウ TOEIC、RIASEC コンピテンシー測定テスト受験（9月～11月に受験予定）

(4) スケジュール (予定)

		全体スケジュール	課題学習	英語学習	
2023	2月	事前学習	○リーダーオリエンテーション①	○テーマ設定案の検討	
	3月				
	4月	事前学習	○全体オリエンテーション ○TOEIC、RIASEC 受験 ○リーダー研修① ○全体研修①	○テーマ設定 ○個人目標設定 ○現状の把握 ○課題の把握・分析、解決策の検討 ○仮説の立案 ○中間報告におけるプレゼンテーション準備 ○国内フィールドワークの実施 ○プレゼンテーション準備及びフィールドワーク準備等 ○進捗確認等	○コミュニケーション能力向上 (チームリーダー：研修支援会社が設置する各教室または本校にて対面受講、自宅等からのオンライン受講いずれかを予定)
	5月		○全体研修② ○リーダー研修②		
	6月		○国内合宿 (全体研修③) 都内での合宿、3日間程度		
	7月		○中間報告会 ○リーダー研修③		
	8月		事前学習		
	9月	海外学習・事後学習	○シンガポール派遣 ○プレゼン研修②	○中間報告会及び海外学習での指摘や調査を踏まえ内容の精査	○英語プレゼンテーション準備 (1日程度) チーム毎に受講予定
	10月		○全体研修⑥～⑦ ○TOEIC、RIASEC 受験 ○プレゼン研修③～④ ○最終報告会		○英語プレゼンテーション準備 (2日程度) チーム毎に受講予定
	11月		○全体研修⑧		

※全体スケジュールの記載事項は原則として全員参加とする。リーダーについて、TOEI スコア 500 点以上又は TOEIC500 点以上に相当する TOEFL、IELTS 等のスコアを取得している場合は英語学習 (コミュニケーション能力向上) の参加を任意とする。

10 経費負担

研修経費の負担は以下のとおりとする。なお、負担経費の確定は、2023年度の本プログラム実施予算が決定する2023年4月1日以降とする。

(1) 参加者個人負担分は(2)以外の諸経費とする。

<例>

- ア 国内及び海外プログラム(上記9参照)においてフィールドワークを実施した際
やチームごとに自主活動時を行った際に発生する交通費及び食事代
- イ 国内合宿参加中の交通費及び食事代
- ウ パスポート申請手数料
- エ 海外旅行保険料(個人用)
- オ その他個人で支出する費用

(2) 東京都公立大学法人負担分

- ア 海外プログラムに係る渡航費及び宿泊費
- イ 国内及び海外プログラムに係る研修受講料
- ウ 英語学習に係る研修受講料
- エ TOEIC、RIASEC受験料
- オ 国内合宿に係る宿泊費
- カ 国内及び海外プログラムの実施に係る諸経費(新型コロナウイルス感染症対応のため必要となる費用を含む)
- キ 研修参加時の往復交通費(支給上限あり)

11 出願

(1) 出願書類

- ア グローバル・コミュニケーション・プログラム参加申込書【様式1】
- イ 志望動機【様式2-1】、課題学習のテーマについて興味のあること【様式2-2】
- ウ 学生証(写)
- エ 成績証明書(原本)及び成績通知書(写)
※学部1年生は提出の必要なし。また、修士・博士1年生及び編入生は、最終学歴
の成績証明書のみを提出すること。
- オ 健康診断書
- カ 語学能力を証明する書類(任意)
※証明する書類がない場合、提出は不要
※コピー可
※TOEIC、TOEFL iBT、IELTS等。(2021年1月以降のもの)

(2) 出願方法

上記(1)の書類に必要事項を記入・作成の上、下記へ提出する。

- ア. メールでの送付 gcp-leader@jmj.tmu.ac.jp
※メールで応募する際、スキャンデータ可、成績証明書は面接時に原本を提出する。
- イ. 書類での提出

【都立大】

南大沢キャンパス：国際課国際連携係

日野キャンパス：学務課入試担当

荒川キャンパス：学務課教務係

【産技大】

管理課庶務・会計係

【高専】

高専品川キャンパス：管理課教務学生係

高専荒川キャンパス：管理課教務学生係

(3) 書類受付期間

2023年1月4日（水）から17日（火）まで

（書類での提出の場合、平日9時から17時まで）

1.2 選考

(1) 選考方法

提出書類及び面接の結果により、総合的に判断し、プログラム参加者を決定する。

(2) 面接の実施

面接は別途、日時を指定する。（2月上中旬予定）応募者が多数の場合、書類選考の上、面接受験者を決定する。なお、定められた面接実施日に欠席した者は応募辞退とみなす。

(3) 書類選考結果及び面接実施日の周知

出願書類受領時に行う。

1.3 結果の通知

合否に関わらず、応募者全員に選考結果を通知する。（2月下旬予定）

1.4 応募書類に記載された個人情報の利用について

応募で提供された個人情報は、選考の目的以外には使用しない。

1.5 特記事項

- (1) 海外におけるプログラム実施前に、戦争、テロ、自然災害、感染症等が発生した場合、派遣を延期または中止することがある。また、派遣中に同様の事態となった場合においても、帰国の勧告又は命令を行うことがある。
- (2) 新型コロナウイルス感染症をめぐる各国の対応策は流動的であり、各国・地域の入国制限措置及び入国に際しての条件・行動制限等が日々変化している。渡航にあたっては日本及び渡航先が提示する入国条件に則る必要がある点に留意すること。なお、渡航先の入国要件として、新型コロナワクチンの接種完了が求められることが見込まれるため、参加決定学生へは、渡航準備として法人が求める期限までに、ワクチン接種記録の提出やPCR検査結果の提出を求める可能性がある。渡航にあたりワクチン接種が条件となる可能性がある点について、あらかじめ了承の上、応募すること。

1.6 その他

- (1) スケジュールに掲載されているものについては、原則として全員参加とする。参加にあ

たっては、前回プログラムスケジュールを確認の上、申込を検討すること。欠席及び遅刻状況によっては、以後のプログラムへの参加を取り消す場合がある。また、本プログラム受講途中に留年が決定した者は、その後のプログラムは受講できないものとする。

- (2) 海外プログラム参加時（2023年9月）までに、TOEICスコア500点以上を取得することを目標とすること。
- (3) 本プログラムを参加途中で自己都合により辞退した場合、10 経費負担（2）東京都公立大学法人負担分に記載した経費の一部（往復海外航空券代金及び宿泊費用の全額、また研修参加時の往復交通費等）を負担させる場合がある。
- (4) 本プログラムを受講した者は、その経験を活かし、次年度以降のGCP事業に協力すること。

1.7 問合せ先

東京都公立大学法人 経営企画室企画財務課事業調整係

電話：03-5990-5388

メールアドレス：gcp-leader@jmj.tmu.ac.jp

＜プログラムのねらい＞

国際的人財育成のためのグローバルビジネス研究プロジェクト
－世界に羽ばたく国際人へのジャイアントステップ－

これからのビジネスには、世界に開かれた国際的な視野が必要であると言われています。そのためには英語などの語学だけでなく、各国特有の文化、習慣、理念など、様々なバックグラウンドを理解することに加えて、海外で自信を持って物怖じせず最初の大きな一歩（ジャイアントステップ）を踏み出すことができる勇気も必要です。

このプロジェクトは、アジアの同年代の学生や国内外の企業等の協力を得て、世界共通の課題（例：環境問題や資源不足、渋滞問題、高齢化社会など）について調査研究し、世の中のニーズに応えられる製品やサービスなどの新しいアイデアによる解決策の提案を行うものです。高校・短大に相当する若い高専生のメンバーと、彼らをリードする都立大生・産技大生・高専専攻科生とでグループを作り、リーダーを中心とするチームで活動します。

本プロジェクトでは、背景の異なる学生がチームを組み、さらに渡航先国となるアジアの学生とも交流しながら調査研究を行うことで、英語を含むコミュニケーション能力のほか、リーダーはグループをリードするためのリーダーシップやマネジメントスキル等を、メンバーはグループの目標達成のために自分がどのような役割を果たすべきかを考え、リーダーをフォローしグループに貢献すること等を実践的に学ぶことができます。多様性のある環境の中で、お互いが目標を共有し、個々の強みや特性を活かして協力しながら仕事を進めて行くことは、現在、グローバルに事業を展開する企業においては必須であり、本プロジェクトでの経験は参加学生にとって貴重な経験となり自信につながるでしょう。また、海外でのフィールドワーク先となるアジアの国では数多くの刺激を得られるはずです。

本プロジェクトを通じて、参加学生が将来、国際人として活躍するための知識と経験を身に付け、大きな一歩（ジャイアントステップ）を踏み出すことを期待しています。